

普光寺だより

令和4年8月10日第4号

真言宗豊山派
浦佐毘沙門堂別当普光寺

日本を救った

ブツダの言葉

普光寺住職 樺澤賢正

残夏の候、檀信徒の皆様方には益々ご清祥のことと存じ上げます。

平素より菩提寺の護持、運営に対し格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

パンデミック第七波の中、行動制限のないお盆を迎えようとしていますが、それぞれのご判断により有意義なお盆をお過ごしただきますよう祈念申し上げます。

今、毎日報道されているロシアのウクライナへの軍事侵攻や核の脅威の現実に触れる時、改めて日本ほど恵まれていて、ありがたい国はないと思うところがあります。それは、私たちが享受し



ている現在の日本の繁栄は、一人のスリランカ（旧セイロン）の若き政治家の善意が大きく影響していることに繋がります。忘れかけていた、知られていないことでもあまり知られていないことかも知れませんので、紹介します。

日本とスリランカは、戦後、サンフランシスコ平和条約発効を機に国交を樹立しました。後に大統領となるジャヤワルダナは1951年（昭和26）サンフランシスコ講和会議にセイロン（現スリランカ）代表として出席した際、「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によつて止む」という『法句経』にある仏陀の言葉を引用し、スリランカの賠償請求権を放棄、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴えました。この演説は拍手に包まれました。そこから会議は一変し、賞賛の嵐で会場の窓のガラスが割れるほどであったと報じら

れ、「褐色のハンサムな外交官がセイロン島よりやって来て、世に忘れ去られようとしていた国家間の礼節と寛容を声高く説き、鋭い理論でソ連の策略を打ち破った」と評されました。これにより先の大戦の日本の賠償の多くは免除されることとなり、急速な経済的發展へとつながるのです。

実はアメリカ同時多発テロ事件（2001年9月11日）が起きたとき、ダライ・ラマ14世はブツシユ大統領（当時）に『法句経』のまったく同じ言葉を送っていました。しかしブツシユ大統領が受け入れることは、ありませんでした。また2015年11月にパリで起きた同時多発テロの犠牲となり妻を亡くした仏人ジャーナリストはSNSでテロリストに向けて「君たちに憎しみという贈り物はあげない」とつづりました。これも『法句経』の言葉と同じ意味、同じ思想です。国家破綻したスリランカの再興を祈念します。



お盆

先祖が一年に二度、この世界にやってくる。一度は正月、もう一度がお盆。この先祖を迎えるために、親戚一同が実家へ集まる。これが帰省だ。帰省するのは生きた人だけではなく、先祖も帰省しているのだ。お盆の場合は、この先祖を楽しく迎えるために踊

りを踊る。……以上のようなことが分らないと、正月とお盆は単なる「休み」となり、帰ってきた先祖はそっちのけで、旅行に行ったりするので、まあなんと愉快な信仰なのだろうとつくづく思う。

人はみんな、いつかこの世の役割分担を終える。そして、年に二回、懐かしい人々と面会にやってくるのだ。私も死んだら、年に二回、懐かしい、そして縁ある人々の所へ帰ってこようと本気で思っている。私の場合、正月もお盆もどちらも二泊三日がいいところだ。それ以上滞在しても、生きてる人に迷惑だろうし、また向こうへ戻ってやることが溜まってしまいそうだからである。

面会制限のあるコロナ禍でも、心豊かなお盆をお過ごしください。

(樺澤住職)

コロナ禍での

裸押合大祭(3月5日)

数百年連綿と受け継がれてきた伝統行事である「大祭」を「中止」という一言で途絶えさせることは出来ない。多聞青年団、大祭委員会で熟慮を重ね、昨年一昨年より行事を増やし、令和4年の大祭を事故無く終えた。



「コロナ対

策」(大祭関係者全員が抗原検査、境内に入る参拝者はマスク、検温、消毒)を万全にし、餅撒き午前一回・午後一回、大名行列、稚児行列を実施する。露天商は出店を中止したが、地元料飲店組合が対

応し、講中の方や参拝客に大変喜ばれた。

「押し合い」と「弓張撒与」は中止としたが、「ねこ」を敷き、多聞青年団最高幹部水行・豊年踊り、撒与者・講中水行、ささらすりを行う。

多聞青年団長挨拶

大祭が終わった3月6日、定例総会で第71代団長に選任されました浦佐田町の阿部容与です。宜しくお願ひします。

コロナウイルスの感染拡大で、3年間堂内での押合が実施できませんでした。来年こそは通常の大祭ができるかと念じています。



大ケヤキ保護

土壌改良および危険個所調査(5月16~17日)



左端が佐渡の今泉造園・今泉孝文樹木医。協力・助手3人は地元のエル・グリーン。



作業のはじまる前日・16日に、今回の作業についての説明・研修会を行う。室内・現地と3時間にわたる。

平成20年6月〜7月に佐藤樹木医から、吉祥・長寿・夫婦ケヤキの3本を調査。「大ケヤキを守る会」が発足され、毎週一回の活性剤散布。春秋の堆肥の施用等の管理を行ってきた。ここ数年くらい前からケヤキの樹勢が弱々しく、昨年11月に、大ケヤキ7本を今泉樹木医から調査診断いただく。その提案(報告書)について、総代会で協議を重ね、今回の土壌改良作業、危険個所調査になる。
謙信公お手植えの「吉祥樺」は400年。他の4本も400〜600年の巨木。このケヤキ群は平成27年に南魚沼市指定文化財となる。



全ての樺に登はんし、枝の不完全な結合「入川」空洞の調査、危険個所調査。危険個所は削除する。



穿孔器具から高圧水(液肥)を噴射。80cm深まで可能。孔穴に通気性持続のためスキを挿入。1本の樺に800~1000孔穴を。

山門「板谷桂舟 壁画・天井画」

修復事業最終年(3年)に

- 修復基本方針
 - ・ 現状を維持する剥落止め、彩色層の強化。
 - ・ 現状維持修復を理念とし、基本的に補彩は行わない。
 - ・ 壁画の部材同士の接合の強化に、裏面から麦漆で麻布を貼る。



中央が松岡先生(南蒲原郡田上町)



● 損傷状況 (天井画)

- ・ 経年劣化により、彩色層自体の強度が弱まり劣化を起こしていた。
- ・ 彩色層の剥離、剥落が起こっていた。
- ・ 支持体である板目が遊離しているものもあった。
- ・ 板が欠失している部分もあった。

(壁画)・部分的に彩色層が剥離し、めくれ上がっている箇所があった。

今年三年目は、壁画3枚、天井画8枚の修復。一枚一枚の絵具・彩色状態が異なり、細心の注意を払い、補修を行っている苦労話を聞く。

来年、山門設置前に、池田記念美術館で、展示する計画(4・22〜5・28)で、その協議を行う。

二年目の修復報告書を「朝日新聞文化財団」に送付し、三年目の助成金二百二十万円を申請。

春季例大祭(5月3日)

コロナ感染拡大で2年間は関係者を中心に開催した。今年は大勢の皆さんから参列いただく。しかし、直会を行わず、折箱、ご神酒、福もち、天恵姑(しいたけ)を持ち帰りいただく。

毘沙門堂での大般若転読会、大護摩修行が終わると、普光寺本堂に移動し、住職講話、表彰式・該当者は一名(湯谷・上村みゆき様)、そして、多聞青年団の新団長、最高幹部が自己紹介。



毘沙門さまにおまいりし、お護摩で願い事の成就を祈願する。



経典 600 巻を、広げ流し読む。参加者はその風に触れ、経典のご加護に授かる。



住職、大祭委員長あいさつ。来年大祭を担う、多聞青年団「さんよ節」を披露。



7年間世話人として、ご苦勞された上村さんに住職より表彰状授与。

毘沙門堂回廊縁の下

コンクリート工事



普光寺の建造物等は、歴史的価値が高く、山門は南魚沼市の指定文化財に。

毘沙門堂は、伊東忠太工学博士の設計で、近いうちに国の重要建築物に指定されるだろう！これらの建物等を利用・保存するためには修理



弁天池の鯉

三年前、檀家の勝又様からご奉納いただき、池の掃除、今年は池で越冬できるようにと大きな枡を2個埋設する。

優雅に泳ぐ「錦鯉」見学に来てください。
餌は与えないでください。
そして、家の鯉、金魚、メダカ等を放流しないで下さい。



選定規定、最初の工事が関東屋左官店さん。重機の運転に注意しての工事でした。

が不可欠。各種工事の業者選定に当たり、業者間の公平性を図るため「普光寺工事業業者選定規定」を作る。(令和4年1月1日より)

講中紹介

沼垂講中



歴史も百年と長く、講元は五十嵐さんから吉岡さんに。沼垂祭りに、多聞青年団が参加したり、浦佐との交流は盛ん。

大野町講中



世話人さんは、栃尾・星長商店のご主人。毎月3の日に「おぼろ豆腐、油揚げ」を毘沙門天に奉納。3日に限り「びしゃもん市」で購入することが出来る。

編集後記

★移動制限のかからないお盆ですが、マスクは必須で楽しいお盆にしましょう。

(常)